JR東日本カップ 2004 第78回関東大学サッカーリーグ戦（前期）１部リーグ 第4節

駒澤大学３－０亜細亜大学

「全然ダメでした」と語った小林竜樹（中）だが積極的にボールに絡み、シュートで終えるシーンを何度もみせた(撮影・野澤俊介)

風に苦しみながらも掴んだ勝利

波に乗った後半

結果的に攻撃は3点とれて、ゼロで抑えられたので満足している。この日、ゲームキャプテンである**小林亮**が振り返った。前節ゴールを量産して首位に躍り出た駒大の勢いそのままに攻撃的サッカーを魅せてくれた。今節は**東平**、**八角**の期待の両1年をスタメンで中盤に配置し2節からスタメンに定着した**小林竜樹**と共にフレッシュな力を駒大に注ぎ込んだ。

まず前半風下にたった駒大。この日は強風吹き荒れる悪天候の中、2分に**八角**が勢いよくシュートを放ち前半から飛ばしていく。続く3分左サイド**東平**とオーバーラップした**小林亮**のコンビネーションからチャンスを作り出すが風の影響もあってか、なかなかゴールに結びつかない。それでもトップ下の**八角**がユース時代にボランチで培った広い視野を武器に起点になりボールを散らし、**赤嶺**のポストプレーや**原**、**小林竜樹**の果敢な突破を引き出していった。またボランチの中後も21、27分のセットプレーからチャンスを作り出すがゴールネットを揺らすことは出来ない。試合後、「少ないながらもチャンスがあったのに決め切れなくてDFに辛い思いをさせた」と**原**が振り返るように前半はどうも攻め切れなかった。

後半風上にたってからはその不安も一掃した。後半開始早々の46分、**中後**のFKをゴール前に入り込んだ**廣井**がヘディングシュート、はじかれたところを**原**が押し込んだ。前半の決め切れなかったのを後半早い時間帯に取れたからうちのペースに出来た」と**原**がいうように駒大ペースへ。前線から速いプレスという駒大サッカーの真骨頂を積極的にだし、前線からどんどん攻めていった。57分、疲れの見えた**東平**に代えて**筑城**を投入。その**筑城**の果敢なプレスからゴールは生まれる。70分**筑城**のカットから前線の**原**にスルーパス、ボールを受けた**原**がキーパーの位置を確認して落ち着いてループで流し込んだ。続く71分にも**原**が決め、ハットトリック達成。得点ランクも堂々単独トップに躍り出た。